通巻616号

紅葉坂

教会だより

2020年3月 NO.12
横浜市西区宮崎町1
日本キリスト教団
紅葉坂教会
牧師　荒井仁

説教

「バラバ」

荒井仁

マルコによる福音書
15章1節～15節

コロナウィルスの感染不安が広まる中で、クルーズ船から帰宅した人たちが差別や嫌がらせを受けるという事件が起きています。健康に問題がないことが確かめられて自宅に帰ると無言電話や嫌がらせの電話が毎日のようにかかって来た人もいました。ウィルスよりも不安が広がって、現実が見えなくなっているのではないかと思わされます。少しでも不安要素を持つと感じられる人々を排除する傾向が見られるのは残念なことです。

イエスの裁判の物語にもイエスの存在に不安を感じて排除したい指導者、彼らに煽られて現実を見ることなくイエスをこの世から排除する群衆の姿が見られます。

ピラトは、宗教指導者の妬みによって訴えられたイエスを救おうと考え、祭りの時に囚人を一人釈放する習慣を利用しようとします。指導者に扇動された群衆はバラバの釈放を求めます。この時に群衆はイエスの無罪の事実には全く目を向けません。宗教指導者に煽られて何も考えずにバラバを釈放してもらうように動いています。

ピラトは群衆がイエスを「ユダヤ人の王と言っている」と彼らの訴えを確認し、イエスが行った悪事を明らかにするように求めます。しかし彼らは「十字架につけろ」としか言いません。ピラトは群衆を満足させるためにバラバを釈放しイエスを十字架刑へと送り出しました。群衆に押されて、訴えられた罪の実情が解明されないまま死刑が確定しました。

3月20日は地下鉄サリン事件から25年目を迎えます。サリンの影響で今も苦しむ人々が少なくありません。被害者の救済が十分になされるように願っています。このオウム真理教の起こした事件で教祖と実行犯が逮捕され死刑判決が下され一昨年7月に刑が執行されました。凄惨な事件だったので死刑ありきの世論に後押しされて裁判が進められた印象が残りました。問題は刑の執行により事件の真相が十分に解明されないままとなったことでした。

ところで釈放されたバラバですが聖書の中にはこの後どこにも登場しません。ラーゲルクヴィストという作家が「バラバ」という題の作品を書いています。その中でバラバはイエスの弟子たちに出会って自分が救われたことを知ります。弟子たちに思いを寄せながら暮らしますが弟子の仲間には入りませんでした。最後に過ごしたローマの町が火事になりますが、町の人々が、キリスト教徒が火をつけたとデマを広げます。バラバはこの言葉を信じて、キリスト教徒の手伝いをするつもりで家々に火をつけて回ります。濡れ衣を着せられて迫害されるキリスト者たちと一緒に逮捕され最後は彼らと一緒に十字架にかけられます。十字架にかけられる前に、ペトロと思しき白髪の老人に、キリスト教徒の「主は愛」だから火をつけることはないと、バラバの思い違いを諭されました。そして十字架にかけられ、自分の魂をイエスに委ねて息を引き取ります。（岩波文庫より）

イエスによって救われた私たちも毎日の暮らしの中で周囲の噂、不安を煽る情報に流され真実を見失うことがあるかもしれません。自分の弱さに目を向けて真実を見る目を神に求める時、扇動の流れから逃れられるのではないでしょうか。イエスは「あなたが言っていること」を明らかにし、一人一人と向き合って判断を求められます。物語の中でバラバが死の間際にイエスと向き合ったように、私たちも群衆に紛れる一人ではなく、一人の人としてイエスと向き合い、すべての人や事柄と向き合えるように祈り求めたいものです。

（2020年3月15日礼拝説教より）